



静岡市の活動報告について

令和5年12月1日
静岡市

静岡市について

人口

人口 678,746人 (令和5年10月末現在)

面積

市域面積 約1,412km²
東西 約 51km 南北 約83km

気候

令和2年 年間平均気温 17.8℃
年間降水量 2,613.5mm



ホビーのまち 静岡
HOBBY CITY SHIZUOKA

静岡市はプラモデル日本一！

円グラフ：プラモデル製造品出荷額

地域	割合
静岡市	83%
その他	17%

※参考：平成30年「工業統計調査」(経済産業省)

「模型の世界首都・静岡」

ホビーのまち静岡推進事業では、この地域特性を活かしたPR事業等を実施し、産界及び地域経済の活性化を図っています。



ユネスコエコパーク
(南アルプス)



三保松原
(富士山世界文化遺産構成資産)



出典：静岡市ホームページ

静岡市のインフラについて

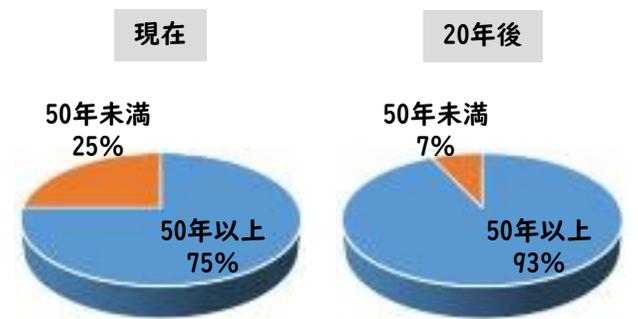
道路

管理道路延長…約3,200km
 管理橋梁数…2,610橋
 管理トンネル数…35トンネル

国道150号 新日本坂トンネル

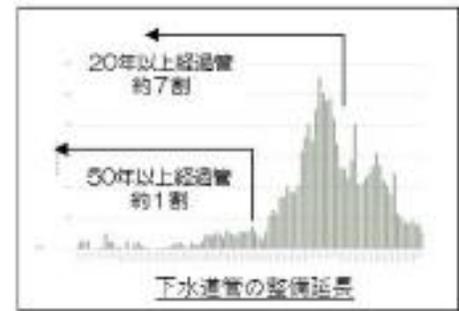
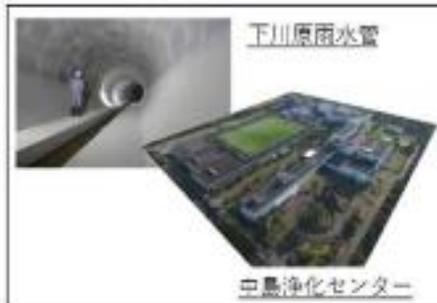


架設後50年以上経過した道路橋の割合



下水道

管理管路延長…約2,500km
 処理場…7施設
 汚水・雨水ポンプ場…16施設



公園

管理公園数…約530か所
 管理面積…468.7ha



河川

管理河川延長 約1,500km

上水道

管理管路延長 約2,700km など

長寿命化の取組① 点検

道路（道路橋）



職員による点検実施状況



橋梁点検車

下水道



下水道管内の
テレビカメラ調査



機器の点検

公園



吊り部材上部の磨耗



吊り部材部の腐食



吊り部材下部の磨耗



着座部の破損(亀裂・破れ)

器具別 指摘写真報告

長寿命化の取組② 対応

道路（道路橋）

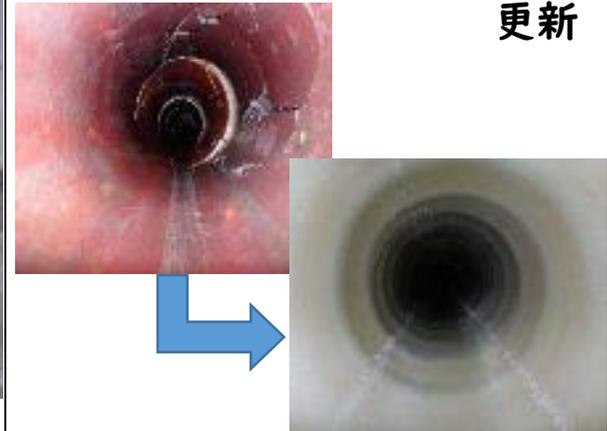


道路（トンネル）



下水道

管更生工法による下水道管の更新



河川（浜川水門）



公園



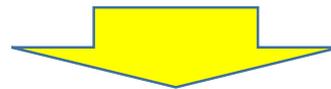
静岡市のインフラメンテナンスの課題

・ 維持管理の効率化に向けた新技術や民間活力の活用

法令等に基づく点検の結果、修繕や更新などの措置が必要な施設が数多く見つかっており、資材や労務単価の上昇も伴い、要する費用も増大している。

また、本市では新東名や中部横断道、国際拠点港湾清水港などにアクセスする幹線道路整備を積極的に進めているが、ストックが増えることで修繕や更新に要する費用は年々増加している。

このままでは新規の投資がままならなくなってしまう。



数多くの施設（アセット）を効率的に管理していくためには、施設の統廃合も含めた総数管理や、新技術や民間のノウハウを活用した個々の施設の維持管理の合理化が必要。

橋梁点検における新技術の導入検討

《委託点検》 画像計測技術の導入

< 従来 >

静岡市の委託点検



交通規制

橋梁点検車

ロープアクセス

点検支援技術（画像計測技術）の導入を試行

< 導入後 >



UAV

点検ロボットカメラ (HITACHI)

導入効果

- (1) 点検支援技術の導入による効率化、交通規制の簡略化
- (2) 網羅的に画像を撮影することによる記録の充実化
- (3) 撮影画像の3次元モデル化による損傷管理の高度化

《職員点検》 タブレット端末の導入

< 従来 >

静岡市の職員点検数

年間200橋を超える職員点検を実施

職員点検の作業項目

- ①点検準備：点検箇所の確認、前回点検記録の把握、野帳印刷
- ②点検作業：点検、野帳記入、写真撮影
- ③内業：写真整理、損傷図作成、帳票作成
- ④診断：判定結果及び所見の整理

タブレット端末の導入を試行

< 導入後 >

職員点検の作業量の変化（人工／10橋当たり）

	点検準備	点検作業	内業	診断
従来	1.0	3.0	2.0	1.0
導入後	0.5	3.0	0.5	1.0

作業量を約30%縮減



導入効果

- (1) 点検の効率化
- (2) 損傷記録の充実化

舗装修繕における新技術の導入検討

ドライブレコーダーを活用した道路維持管理

【背景】

本市では、国県市道を合わせて約3,200kmの道路を管理している中、全ての状態を日常的に把握することは困難なため、効率的な維持管理が課題

【実証実験】 期間：R5.11.6～R5.12.6

三井住友海上火災保険「ドラレコ・ロードマネージャー」

※保険契約企業に搭載しているドライブレコーダーのデータ活用



舗装の劣化状況の調査・分析などにAI技術を活用し、業務の効率化と省力化、補修作業の迅速化を図る

SNS（LINE）を活用した道路損傷情報の受付

道路損傷等通報システム

R4.6月運用開始

【導入の効果】

道路の穴などを発見した場合、静岡市LINE公式アカウントを利用して、写真や位置情報を誰もがいつでも簡単に通報でき、従来の電話対応などに比べ、現況把握や緊急性の判断がスムーズになり、補修に至るまでの時間が短縮される。

【通報件数】

1,665件（R4.6～R5.10）

100件/月 程度

（電話・メールを含めた全通報件数の約1割）



今後の静岡市のインフラメンテナンス

デジタル技術を活用したインフラ分野のDX推進により、本市が抱える各種課題に対し、より効率的な対応を取ることで、必要なコストを抑えつつ、安全性が担保され、安心して暮らすことができるインフラの構築を進める。



新日本坂TN



歩道橋の塗替



石部海上橋
耐震補強・補修



ご清聴ありがとうございました
静岡市